

## (土曜授業推進事業に係る実践報告書)

- 1 学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担しながら社会全体で子どもを育てる。子どもたちに豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることができるよう、取組を充実する。
- 2 地域と連携した体験活動や、豊富な知識・経験を持つ社会人等の外部人材の協力を得た取組などを、道徳や総合的な学習の時間、特別活動などの授業、学力補充などを通して「生きる力」をつける。

平成 27 年度は、「土曜授業」、「土曜の課外授業」、「土曜学習」の 3 つの形態に整理しながら、各関係機関と具体的な調整を図り、市内全 40 校に設置されている鈴鹿型コミュニティスクールを活用し、学校運営協議会等で保護者や地域の方と協議の上、学校の実情に応じて実施してきた。原則第 3 土曜日を基本とし、年間 8 回程度実施した。

一方で、国の第二期教育振興基本計画において、キャリア教育の推進は重要課題のひとつとなっており、幼児期から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育の充実が求められている。本市においても、「ものづくりを基盤として、夢を育むキャリア教育の推進」をテーマに、小中連携したキャリア教育の推進を図っている。しかし、発達の段階に応じた、学校の教育活動全体を通じた指導という視点で、本市のキャリア教育の取組をみると、まだ研究を深めていく必要がある。そのため、小中学校に対しては、学習と自分の将来とを関係付けることのできる授業づくりや、教科の縦と横の連携を意識したカリキュラムマネジメントを一層推進していく必要がある。

そこで、本研究において、土曜日等に実施することの利点を生かして、小中連携したキャリア教育の効果的な指導方法やモデルカリキュラムの開発などを探る。

## IV 具体的な取組・実践例

## 1 実践校 4 校の実践事例

## 鈴鹿市教育委員会

## ＜所在地＞

〒513-8701 鈴鹿市神戸 1-18-18

TEL 059-382-9028

E-mail kyoikushido@city.suzuka.lg.jp

## I 研究のねらい

鈴鹿市では、子どもたちへの豊かな教育環境作りのため、平成 26 年度から土曜日の教育活動を実施している。

そして、本研究での主なねらいは以下のとおりである。

- 1 土曜日実施の利点を生かした教育内容の創造
- 2 地域力の発掘と活用
- 3 小中学校における系統的なキャリア教育推進
- 4 土曜日の教育活動に関する地域保護者の理解促進
- 5 検討すべき課題の洗い出し

## II ねらい達成のための方策

平成 27 年度と同じ 1 中学校区単位で土曜日の授業実践校を 4 校指定し、「土曜日の授業コーディネーター」が学校間の連携を図りながら、中学校区における土曜日の教育活動の連絡調整を図り、外部人材の協力を得ながら取組を行い、小中学校が連携して進めるキャリア教育を実践の核として取り組む。

また、各学校の地域の特色に応じて、「土曜日の授業コーディネーター」を中心に、有効であると思われる土曜日の教育活動の事例収集を行い、検討する。

## III 研究の概要

土曜日の教育活動についての本市の考え方としては、主に以下の 2 点を重点として取り組んでいる。

**(1) 各校共通の実践事例**

「平田野中ものづくり人材育成プログラム」の小中連携した取組として、校区の3小学校に技術・家庭科の教員が出向いて、「ロボット作り」の授業を行った。今年で4年目の取組である。科学部の生徒も作業の補助に入り、小学生は、はんだ付けを行ってロボットの回路を作り上げ、ものづくりの喜びを体験できる取組となった。また、小中学生がものづくりを通してコミュニケーションをとる事で、中1ギャップ問題にも効果があると思われた。



そして、住居、共に暮らす家族、働く姿等、身近な事柄から自分の将来に思いを巡らせながら「ドリームマップ作り」を各小学校で取り組んだ。マップ作り及び交流会を通して、自分を見つめ直し、自分の良さに気付いたり、えがいた夢に向かって行動したら、「夢は叶うのかもしれない」と、自己実現に対し、関心・意欲が高まったりする姿が見られた。

**(2) 平田野中学校の実践事例**

第2学年では、特別支援学級の生徒が、授業で自分たちが制作をした小物おきやペン立てを、地域の方が集まる学校のバザーで販売をした。活動を通じて、社会との関わりの中で生活をし、働く楽しさや喜びを感じることができたり、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成したりすることができた。

**(3) 国府小学校の実践事例**

第4学年の児童は、福祉に関する学習として、外部の方をゲストティーチャーに招き、障がいのある方が安心して地域で暮らし、さらに自立ができるような就労支援を行っていることを学んだ。その中で、障がいのある方が、パン作りや野菜作り等、苦手なことであっても挑戦していく姿を知ることを通して、何事にも挑戦する大切さについて学んだ。

**(4) 庄野小学校の実践事例**

第4学年の児童と保護者を対象に、2020年東京パラリンピックの強化指定選手であり、鈴鹿市在住の恩田竜二さんを招いて、授業が行われた。仕事の事故で下半身不随になった恩田さんが、車椅子フェンシングの国際大会で生き生きと活躍されている映像と共に話を聞いたり、子ども達が疑問に思ったことを質問したりした。恩田さんから聞いたことを通して、日常生活において様々な工夫や人の気持ちや支援で乗り越えられること、また、障がいのある人が生き生きと生活できるように今から自分たちができること等を具体的な場面を例に、学ぶことができた。

**(5) 明生小学校の実践事例**

保護者や地域の方々を多数招いた明生文化祭が開催され、全学年による学習を発表する場が作られた。文化祭の後半では、昨年度に引き続き、平田野中学校吹奏楽部を招いた音楽鑑賞会が行われ、身近な中学校の先輩たちが美しく奏でた音色を体感することで、児童たちも「自分

## 資料2

### (土曜授業推進事業に係る実践報告書)

年度の実践をより充実したものとするための計画を立てる1つの指標とすることができた。

- イ ロボット作り等の小中連携した取組の充実が図られた。また、全小学校で、ドリームマップ作りに取り組み、共通した外部人材でキャリア教育を進めることができた。
- ウ 児童生徒は、外部人材と授業を行うことにより、学習が深まったり、新たな考え方に会ったりすることができた。

### (2) 課題

- ア 実践校での取組をモデルカリキュラムとして広め、市内小中学校の各校の実態に応じた取組にしていくことが課題である。
- イ 土曜授業を含む土曜日の教育活動については、学校運営協議会で協議の上、年間計画を立てて実施してきたが、家庭、地域、外部団体等の理解、協力なくしては円滑な実施は難しい。これからも、取組の様子や本研究の成果等を、市広報やホームページ等を活用して広く発信して、実施について十分に理解を得る必要がある。
- ウ 教職員の勤務においては、土曜日の振替を同一週で取得することが困難な状況があり、やむを得ず長期休業中での取得となる場合が多い。

「たちもやればできる」と感じる事ができた。



## 2 カリキュラム等検討委員会の開催

- (1) 第1回 6月20日(月)
  - ア 委員会メンバーの確認
  - イ 昨年度の成果と課題
  - ウ 各校の土曜授業に係る取組計画
    - ① 共通する取組  
各小学校では、「ロボット作り」「ドリームマップ作り」を実施する。
  - エ 児童生徒向けアンケートの実施
- (2) 第2回 12月2日(金)
  - ア 各校の土曜授業に係る取組の成果と課題
  - イ 次年度以降の各校共通の取組について
  - ウ 助言者より取組への助言
- (3) 第3回 2月20日(月)(予定)
  - ア 各校の取組のまとめ
  - イ 成果と課題
  - ウ 次年度以降の取組について

## V 研究成果の検証

### 1 検証方法

土曜日の教育活動について、外部講師の関わりやキャリア教育等について、3学期に児童生徒・保護者アンケート調査を実施して、児童生徒の意識の変化を調査して、各校の実践と関連付けて、効果の検証を行う。

### 2 検証結果

検証結果は以下の通りである。

#### (1) 成果

ア 1中学校区において、どのようなキャリア教育を行い、どのような外部人材に出会い、土曜授業の取組をどのように進めているかを共有することで、各小中学校におけるカリキュラムを検討することができ、来

## VI 次年度の取組方針

- 1 本研究に係るアンケート結果、成果、課題及び市内小中学校への土曜日の教育活動に関するアンケートの結果を基に、本市の取組を検証する。
- 2 学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担しながら社会全体で子どもを育て、子どもたちに豊かな教育環境を提供し、その成長を支える必要がある。そのために、地域と連携した体験活動や、豊富な知識・経験をもつ社会人等の外部人材の協力を得る等、各校で地域の実態に応じた取組の一層の充実を図る。

## 御浜町教育委員会

### <所在地>

〒519-5292 南牟婁郡御浜町大字阿田和 6120-1

TEL 05979-3-0526

E-mail m-kyouiku@town.mihama.mie.jp

### I 研究のねらい

当町内、小中学校において、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果を見ると、インターネットやスマートフォン等の使用時間が大幅に増え、家庭学習の時間が少ないなど、生活への影響などが懸念される。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を見ると、運動においては、1週間の総運動時間で、小学校男子は『運動する児童』と『運動しない児童』の二極化が全国や県より顕著であった。(小学校女子と中学生は1週間の総運動時間は多い)土曜日に焦点を当てると、小学生では県や全国より運動時間が少なく、中学生は多い(部活動を含む)という結果であった。こうした児童生徒の実態を踏まえ、学校、家庭、地域が連携し、役割分担をしながら、多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会を設け、子どもたちにとって豊かな教育環境を提供するための方策を講じる。

### II ねらい達成のための方策

- 外部講師を招聘した『キャリア教育講演会』『絵本作家を招いての講演・作画』『演劇鑑賞』などを開催し、児童生徒の将来への夢や希望を育み、学習への意欲の向上を図る。
- 地域の人材を活用し、きめ細かな学習支援や体験活動をすすめる。
- 大学教授等の外部講師を招聘した授業研究会を持ち、教員の授業力の向上を図り、子どもたちの学力向上を図る。

### III 研究の概要

土曜日の授業において、地域人材活用による児童生徒へのきめ細かな指導や野外活動の充実などを通し、児童生徒の学習意欲を高める。また、外部講師を招聘し、公開校内研修会を開くなどし、教員の授業力の向上を図る。さらに、キャリア教育に関わる講演会や絵本作家による講演会など、地域・保護者の参加を含めて、土曜授業をきっかけとして、子どもたちの豊かな学びの環境を作り上げることを目指す。



### IV 具体的な取組・実践例

#### 1 尾呂志学園小中学校の実践

12月17日(土)に絵本作家、イラストレーターとして活躍中の山本真嗣さんから、絵本作家などの仕事やイラストについて学び、「友だちの似顔絵」を描いた。

絵本作家とイラストレーターの仕事の異なる点や魅力・苦勞などを学び、子どもたちは興味のある内容だけに、映像を見ながら熱心に聞き入っていた。子どもたちから「大変なので辞めたいと思ったことはないですか。」「どうして今の仕事に就いたのですか。」などの問いに対して、「たくさんの方が自分の絵に携わってくれている。小さいころから絵を描くことが好きで、好きなことが仕事になったので、辞めたいと思ったことはない。」と答えてくれ、仕事に対する姿勢、小さいころからの夢の実現など、未来につながる話も聞かせていただいた。また、子どもたちがペアになって『にがおえプレゼント けいかく』と題して友だちの似顔絵を色紙に描いた。



友だちに好きな物や食べ物などをインタビューし、似顔絵と組み合わせて描いたり、似顔絵の周りに様々な絵柄のシールを貼ったりして楽しい色紙に仕上げた。出来上がった似顔絵はお互いに交換した。



## 2 中学生議会の開催

昨年に引き続き、社会科の学習（主権者教育）の一環として、地方自治に関する学習を深めることを目的に、町内中学3年生全員による模擬議会を開催した。

生徒が議員として『御浜町総合計画』をもとに町長や教育長、担当課長に本物さながらに一般質問を行い、町づくりについての提言を行った。これにより政治や選挙に関心を持ち、主権者として素晴らしい町づくりに参加しようというきっかけになったのではと考えている。（議長も生徒が務めた。）

また、同時に教育講演会として中学生を対象に「明るい1票、うれしい未来」という演題で落語家の柳家一琴さんに講演をいただいた。生徒たちは、ユーモアたっぷりの話を聞き、選挙の大切さや一票の尊さを楽しみながら学んだ。



## V 研究成果の検証

### 1 検証方法

- ・保護者・児童生徒へのアンケートをとる。
- ・各学校からの報告

### 2 検証結果

今年度のアンケートについては、2月中旬までにとる予定である。

#### (1) 成果

今年度の成果については、十分に検証はできていないが、昨年度のアンケート結果より児童生徒は「何かを作ったり、体験したりするような学習がしたい」という割合が最も高かった。各学校においては、単なる授業時数の確保にとどまらず、土曜授業においてアンケート結果を踏まえて『パーカッションに挑戦』、『フルーツ演奏会』、『わくわく理科教室』など、工夫をして取り組んでいる。

#### (2) 課題

ア 中学生議会は、実際に町の議場を会場に行った。来年度以降も継続したいと考えているが、町内全校となると、移送が大変である。また、土曜授業での開催は日程調整も難しく、平日開催も検討している。

イ 児童生徒の実態、保護者の意向を十分把握すること。

## VI 次年度の取組方針

今年度の取組をさらに児童生徒の実態や保護者の意向を踏まえ、有意義なものになるよう深めていきたい。

